B 城陽市域の宇治茶生産の景観

上津屋

③ 木津川河川敷に広がる覆下茶園

木津川右岸の河川敷には、水はけの良い砂地を利用して、本簀や寒冷紗を用いた覆下茶園が広がっています。

概要

城陽市の市域東部は山地が広がる一方で、中央から西部にかけては広く平地が形成されています。宇治市域に隣接していることから、早くから茶生産が伝播し、17 世紀中期には市域に茶園があったことが確認されています。

上津屋は、城陽市域の北西端にあたる地区です。木津川のすぐそばに立地しており、**河川敷には本簀や寒冷紗を用いた覆下茶園**が広がっています。覆下栽培は 19 世紀以降に宇治から木津川流域に広まりましたが、本地区はその典型例となっています。河川敷の平坦な砂地を利用した覆下茶園で生産されるお茶は、松のような濃い緑をもつ独特のお茶となり、現在、上津屋地区はてん茶（抹茶）の主要産地の一つとして知られています。

以前は、対岸を結ぶ渡船の発着場もありました。その袂に展開するのが上津屋集落ですが、**集落内には茶を加工する茶工場建物も見られ**、河川敷の茶園との一体性がうかがえます。

木津川という自然条件をうまく利用して茶園・集落が形成されている点が見所です。

① 上津屋の集落

木津川右岸の堤防に隣接して集落が立地しています。昔は渡船場でもありました。集落の周囲は水田・茶園が広がります。

② 茶工場

上津屋集落を歩くと、茶工場として利用されていた建物を確認することもできます。

C 京田辺市域の宇治茶生産の景観

飯岡

③ 丘陵の地形を活かした飯岡の土地利用

河川沿いの独立丘陵という独特の地形を巧みに利用して、茶園や果樹園、竹林と集落が丘陵を覆い尽くすように展開しています。

概要

京田辺市飯岡(いのおか)地区は木津川左岸に隣接して位置します。**地区の中心には標高 66.8m の低い独立丘陵**がありますが、周囲は木津川によって形成された平地のために、よく目立ちます。丘陵部には古墳もあり、歴史的な重層性をうかがうことのできる地域です。

丘陵は竹林と集落、果樹園、そして茶園に利用されており、丘陵の周囲には水田が広がります。特に茶園では**覆下栽培による玉露生産**が盛んにおこなわれており、南山城を代表する産地です。

飯岡集落は丘陵に固まり、屋敷地は農作業にあわせた造りとなっています。なかでも作業小屋は、荒茶加工の場として、また収穫物の保管場所として、さらに茶摘み等の農作業の手伝い人の宿泊場所として、さまざまに利用されていました。

また、丘陵にある竹林は玉露生産に不可欠な覆棚をつくる材の供給地となっており、生業に不可欠な場所でした。

河川沿いの独立丘陵とその周囲の平地という、自然特性を巧みに利用しつつ、茶生産をはじめとした複合的な農業が展開することで、独特の景観を生み出しています。

① 茶工場

飯岡の集落を歩くと、茶工場として利用されていた建物を数多く見ることができます。

② 七井戸・古墳

集落内には七井戸と呼ばれる井戸があり、大切にされています。また、古墳時代前期～後期の古墳もみられ、歴史の重層性をうかがうことができます。

D 宇治田原町域の宇治茶生産の景観

湯屋谷、奥山田、郷之口

③ 大福集団茶園

日射条件や大きな気温差などこの地特有の茶生産に適した土地に開拓する「山なり茶園」が生み出す美しい景観が見られます。

概要

宇治田原町は信楽街道と田原川が交わる交通の要所として古くから栄えた地で、江戸時代に入り、永谷宗円等による煎茶製法の開発や販路拡大によって急速に成長し、煎茶生産の中核を成すに至った町です。

奥山田、湯屋谷は、鷲峰山北麓の谷筋に展開する集落で、奥山田大福谷で鎌倉時代初期に茶栽培が始められ、湯屋谷では**永谷宗円**等によって青製煎茶製法が開発されたと言われています。宗円は江戸への販路開拓も成し遂げたため、**谷深い地ながら茶農家だけでなく茶問屋も軒を連ねる集落形態**が生まれました。

茶園は谷沿いの水田脇に設けられた原型というべき茶園景観にはじまり、戦後には大福に大規模な山なり茶園が開かれ、寒暖の差の大きい気候を活かした香りのよい煎茶が生産されています。

また、郷之口は、陸上及び水上交通の結節点に発達した茶問屋街で、**間口の狭い町家形式**を持つ明治以降の茶問屋が建ち並びます。

茶の他にも古老柿という特産があり、その生産に使われる「**柿屋**」は水田や茶畑と合わせて独特の景観を見せます。

④ 茶宗明神社

永谷宗円を祀る神社で、湯屋谷の最奥に位置しています。地元とともに、京都府南部を中心とする全国の茶業関係者の寄進により建設、維持されています。

郷之口

信楽街道と田原川が交わる物流の要所に位置する郷之口には、うなぎの寝床状の敷地が並ぶ城下町由来の都市構造を基盤として、茶問屋街が形成されています。

① 郷之口の町並み

出格子がなく軒下に広い空間がある町家が並び、かつての物流の様子を窺わせます。

② 郷之口の茶問屋

郷之口の東端の犬打川脇に位置する一際大きな茶問屋。

③ 柿屋

宇治田原の冬の風物詩の「柿屋」。茶園には柿の木が必ず植えられており、茶生産の原風景が見られます。

⑤ 永谷宗円生家

谷奥の茶宗明神社の脇に立つ永谷宗円の生家跡。内部に当時のほいろ跡が保存されています。

⑥ 湯屋谷集落の景観

細い谷間に建物が並ぶため、石垣の上にそそり立つ様に茶農家や茶問屋の建物が並んでいます。

⑦ 木造３階建の製茶場

急斜面の際に建つ唯一の木造３階建ての製茶場で、谷の入口に構える偉容は茶生産の盛況ぶりを物語ります。

⑧ 大福谷

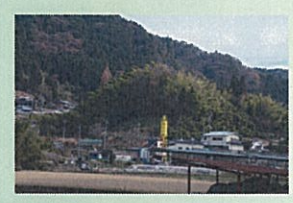
宇治田原の茶発祥の地。細い谷間は周囲の樹木で日光が遮られ、天然の覆下茶園の様な環境となります。

湯屋谷

永谷宗円等が「青製煎茶製法」を開発したと伝えられる地。江戸に販路を開いたため、谷深い地ながら茶問屋が並ぶ特異な集落形態が見られます。

奥山田

昔ながらの水田と茶園を併せ持つ素朴な集落景観と、急勾配の集団茶園を有する地域です。



⑩ 明治の山なり茶園

小高い丘の斜面に小さく茶園が見えていますが、形状や植生からかつては丘全体が茶園だったことが伺えます。

⑪ 奥山田の集落

集落・水田・茶園が一体となっている茶生産の原風景が見られます。

⑫ 急斜面の集団茶園

奥山田の寒暖差の大きい気候を活かし、山々を一望できる高所に開かれた集団茶園で、急斜面を茶の畝が覆います。